東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2010 年 10 月 8 日

成長期の私たちの子供たち

親愛なるムスリムの皆様。

預言者ムハンマドは、ある聖ハディースで次のようにおっしゃられておられます。「あなた方は皆羊飼いであり、皆その群れに対して責任を負う。人はその家族を守る者であり、その庇護下にある者に対し責任を負う。」今日は、このハディースから出発して、私たちが責任を負っている第２次成長期の子供たちの行動や彼らに対して見せるべき私たちの振る舞いについて考えて見たいと思います。

成長期の子供たちには、肉体的な外見においても、態度や振る舞いにおいても多くの変化が現れます。善悪を区別し、宗教的責任を果たすべき時期に入っているのです。子供達にとって最も痛みを伴う時期でもあります。

成長期には、体が急速に成長するため、いつも不安定です。家の手伝いもいやいや行なうようになります。怠惰であるようになります。人の気に入られることに重きを置きます。鏡の前で長い時間を過ごします。身なりや服装、香水、ジェルといったものに時間をかけます。この時代には、非常に複雑な感情が生まれるようになります。家で一人で過ごすことを望む一方で、学校では友達と離れて過ごすことはできません。両親の地位を友人が占め、友達のためにはどんな犠牲も払えます。何かを尋ねると怒りや不機嫌さで応えます。かばんや引き出しをいじられることを激しく嫌がり、また自分の持ち物を片付けることすらしなくなります。両親から命令を受けたり、管理されたりすることが気に入りません。彼らにとってもはや両親は、全てを知っている存在ではないのです。両親の服装や話し方、色々な行動を批判するようになります。ちゅうちょすることなく、口答えするようになります。時には物質主義的であり、時には非常に感情的です。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。

両親はこの時期において、自分の子供たちを再発見することが必要となります。彼らの過ちを、頭ごなしに非難してはいけません。この時代の子供たちを嫌がったり、彼らを無視したりしてはいけません。その空白は必ず誰かによって埋められることになります。子供のうちから、何故創造されたのか、この世に生まれてきた意味は何なのか、そしてどこへ行くのか、ということを説明していれば、その子の人生は意味を獲得するでしょう。この時代の子供たちには特に、両親は次のことを感じさせるようにするべきです。すなわち、彼の家は悪や危険から守られた暖かい居場所であり、家族も彼を愛していて、どんなことがあっても彼の見方である、ということです。

怒りや恨みで子供をしつけることはできません。成長期の子供は大人への敬意や、特に愛情を失うことになります。両親はいつでも、子供の話を聞く準備ができているべきです。「あなたのことを理解している。」というメッセージを与えるべきです。「これをしろ、あれをやれ。」という形ではなく、「こういう状態でどうしたいと思っているのか。もし私に尋ねるなら、私ならこうしただろう。」という形で話すべきです。

一方で、成長期の子供たちのあらゆる振舞いを許し、子供の言いなりになる親も、子供に大きな害を与えることになります。成長期の子供に対しては、前で立ちふさがっていても、後ろについていっているようでもいけないのです。隣にいるべきなのです。この困難な日々は共にいること、一体となっていることによって乗り越えられるのです。何があろうと、それは私たちの子供なのです。アッラーの御前で、私たちは彼らに対しても責任を負うのです。